

《たちすずか》の  
後継品種

農林水産省 出願番号 第30993号

# つきすずか

(中国飼 219号)

WCS用イネ品種

縞葉枯病抵抗性・高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強の極晩生品種



### 特徴

- 極晩生で、関東以西、九州向き。
- 穂長は極短で、籾重は「たちすずか」より少ない。
- 稈長は高いが重心が低く、倒伏に強い。
- 縞葉枯病に強い。
- 糖分含量が高く、発酵品質及び嗜好性が期待できる。
- 消化されやすい茎葉の割合が高く、消化されにくい籾の割合が低い。

### 栽培ポイント

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- WCS 生産では、早植え、多肥栽培が有効。

品 種	試験場所	移植日	出穂期	黄熟期	成熟期	稈長	乾物全重	乾物収量	WCS	
									推定TDN 含量(%) <sup>*1</sup>	推定TDN 収量t/10a
(対象品種)		月・日	月・日	月・日	月・日	cm	t/10a	t/10a		
つきすずか	福山市	6月4日	9月3日	10月3日	—	121	1.73	0.05	53.0	0.95
(たちすずか)		6月4日	9月3日	10月3日	—	119	1.70	0.13	54.2	0.99

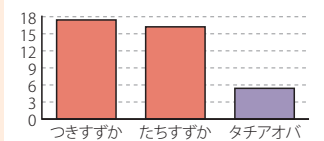
1) 玄米重は乾物収量の値 2) 施肥窒素量は14.9kg/10a 3) 2013~2016年の平均

※1 畜産研究部門の推定式による。

## 稲発酵粗飼料用品種『つきすずか』の大きな特長

### 茎葉中の糖含量が高い

収穫期における地上部糖含有率の比較  
(乾物量%)  
※収穫の目安は出穂40日以降が望ましい。

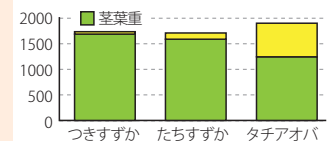


### 出穂期の変動が小さい

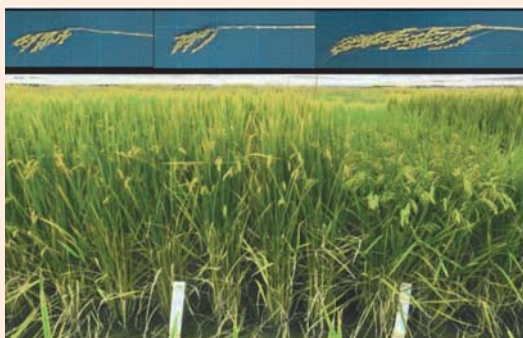
「たちすずか」よりさらに感光性が強く、移植期を変えた際の出穂期の変動は10日程度なので、収穫などの計画を立てやすい。

### 茎葉の割合 > 籾の割合

収穫期における乾物量の比較 (kg/10a)



### 草姿と穂相の比較



たちすずか つきすずか タチアオバ

### 縞葉枯病に抵抗性

「たちすずか」より縞葉枯病に強い。



つきすずか(無防除)発病極少 たちすずか(苗箱施用防除)発病多

【縞葉枯病多発地での生育(2016年10月)】

縞葉枯病に強い「つきすずか」は関東以西の縞葉枯病多発地域でも栽培ができます